

# J A グループ宮城 災害復興ニュース ( 総 合 版 )

## 第 9 7 号

【平成 29 年 2 月 3 日 (金) 発行】  
発行：J A グループ宮城災害復興本部  
編集：J A 宮城中央会  
〒980-0011 仙台市青葉区  
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F  
電話番号：022-264-8207  
FAX 番号：022-216-4466

### 《目次》

1. 東日本大震災からの復興をアピールし、札幌で宮城の冬野菜など P R
2. 復興を「正夢」に。宮城米の新品種名、「だて正夢」に決定
3. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 65 次請求

### 1. 東日本大震災からの復興をアピールし、札幌で宮城の冬野菜など P R

宮城県園芸作物ブランド化推進協議会と J A 全農みやぎは 1 月 26、27 日、札幌市内で「みやぎフェア」を開き、仙台いちごや、曲がりねぎ、ちぢみ雪菜、ちぢみホウレンソウなど、宮城の冬野菜を P R しました。

札幌市中央卸売市場で開いた情報交換会では、市場関係者から「まだまだ足りないので、ぜひ北海道市場に供給してほしい」と、期待の声が寄せられました。

フェアには県、全農みやぎ、県内 6 J A の組合長や園芸担当者など 34 人が参加。札幌市内 3 カ所の量販店で試食販売しました。



ちぢみホウレンソウのおひたしなどを試食する市場関係者

情報交換会には、県園芸作物ブランド化推進協議会会長の全農みやぎ菊地潔県本部長、同副会長の県農林水産部の小島俊夫次長はじめ J A あさひなの櫻井藤夫組合長、J A 名取岩沼の佐藤富志雄組合長など 20 人余りが参加しました。

全農みやぎの菊地県本部長は「東日本大震災から間もなく 6 年。園芸については震災前の数量まで戻ってきています。今後も愛情をこめて作って、安定供給していきたい」とあいさつしました。札幌ホクレン青果(株)の菊地一弘専務は「宮城の葉物には、おいしさが伝わるストーリーがある。だから売りたい。まだまだ拡販する余地はある」と、さらなる供給を要請しました。

参加した J A あさひなの櫻井藤夫組合長と J A 名取岩沼の佐藤富志雄組合長は「安定供給に向け今後、生産拡大に努めていきたい」と語りました。

## 2. 復興を「正夢」に。宮城米の新品種名、「だて正夢」に決定

宮城県は1月23日、平成30年度に本格デビューする新品種「東北210号」の名前を「だて正夢（まさゆめ）」に決めたと発表しました。

「だて正夢」は古川農業試験場が開発した新品種。もっちりとした食感と粘りが特徴で、冷めてもおいしく食べられます。栽培面では、寒さへの耐性が強く、「ひとめぼれ」よりも倒伏に強いのが特徴です。

「正夢」というネーミングには、東日本大震災からの復興が実現するよとの思いも込められており、県では、「ひとめぼれ」「ササニシキ」に次ぐ新たなブランド米に育てていく方針です。JAグループは県と一体となって栽培拡大をすすめ、ブランド米としての定着を目指します。

栽培は平成29年度から本格的に開始。生産農家は登録制で最大で約6,000戸とし、3万トンの生産を見込んでいます。



新銘柄米に期待を込める石川壽一中央会会長ら関係者

## 3. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第65次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は1月31日、東電に対して第65次分として3,253万円を請求しました。

内訳は、牧草地の除染に係る損害が1,937万円、牧草の利用自粛等にかかわる損害が1,316万円となっています。

以上